

# 知 東日本大震災がもたらした環境問題



平成23年3月11日に起きた東日本大震災で、東北から関東地方の太平洋沿岸は、地震と津波による大きな被害を受けました。

## 原子力発電所の事故

東日本大震災の地震と津波がもたらした東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、放射性物質が放出され、今なお日本にとって最大の環境問題となっています。

## 放射性物質と除染

**放射性物質**  
放射線を出す物質のことで、もともと自然界に存在しているものもあります。東京電力福島第一原子力発電所の事故では、発電所内にあった放射性物質が放出されました。

**放射能**  
放射性物質が放射線を出す能力を「放射能」といいます。

**放射線による人への影響**  
強い放射線を受けると、人間の体をつくっている細胞のDNA(遺伝子)が傷付き、細胞がガン化してしまうなど、健康への影響が生じる場合があります。

**除染**  
放射能は、時間とともに自然に減っていきますが、放射線の量をできるだけ早く減らすため、「除染」という作業が進められています。具体的には、「放射性物質が付いている土や草木などを「取り除く」、「放射線を土などで「さえぎる」、「取り除いたものを生活している場所から「遠ざける」という3つの方法を組み合わせて、「除染」を進めています。



### 健康を見守るために

福島県では、震災が起きた平成23年から現在まで、放射線による健康への影響などを調べる「県民健康調査」を行っています。この調査は、震災の時に福島県に住んでいた子どもたちを中心に、すべての住民を対象にしています。



## 汚染された廃棄物の処理

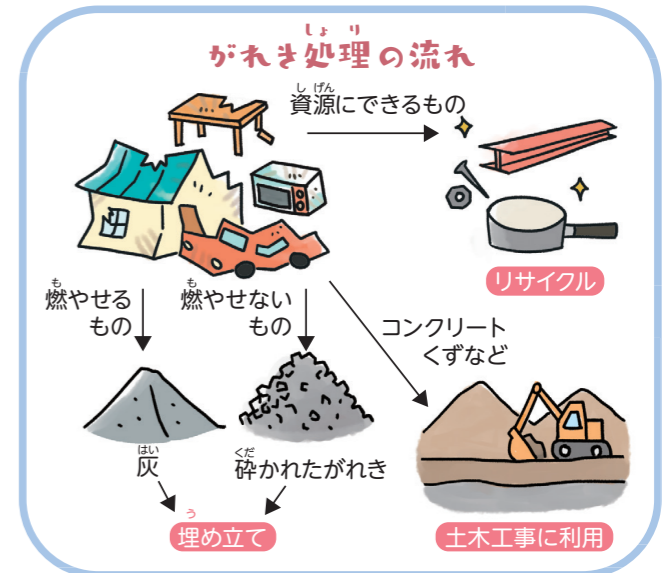
大気中に放出された放射性物質は、風によって広がり、雨などによって地面や樹木などに付着しました。そのため、放射性物質が、わたしたちの生活の中で出されるごみなどにも付着し、放射性物質により汚染された廃棄物が発生しました。この廃棄物は、放射能に応じて安全に処理されます。



## 災害廃棄物の処理

こわれた建物や家具などがれきや、津波によって海から打ち上げられた土砂などを災害廃棄物といいます。東日本大震災では、大津波と強いゆれによって、約3,072万トンという大量の災害廃棄物が発生しました。

この経験を通じて、災害が起きる前から十分な備えをするために、国は必要な法律を定めたり、各地域の役場を助けられるような仕組みづくりを行ったりしています。



### 集められたがれきの行方

被災地に残ったがれきは仮置場に一時的に集められ、資源として活用できるものはリサイクルされて、コンクリートくずなどは土木工事の材料などとして再生利用されます。そのほかの燃やせるがれきは焼却され、燃やせないがれきは細かく砕かれ、燃やされた灰とともに埋め立てられます。震災では大量のがれきが生じたため、被災地以外の他の市区町村に運んで処理してもらう「広域処理」を進め、東京都や大阪府、北九州市など多くの自治体や民間事業者が協力してかたづけをしました。その結果、平成26年3月末までに、福島県の一部地域以外の処理は終わりました。福島県のがれきの処理については、これからも多くの人たちの協力が不可欠です。